

受賞者氏名	小口 雅史	
所属	文学部史学科	
受賞年月日	2025 年 11 月 26 日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	青森県	
受賞名	令和 7 年度青森県褒賞	
受賞(研究)内容詳細	青森県褒賞は、青森県褒賞規則によりますと、「公共の福祉増進に功労の著しい方（団体）又は広く県民の模範となる方（団体）の事績を顕彰し、褒賞するもの」です。同規則に基づき、昭和 33 年度から毎年行われており、本県における最高表彰として位置づけられています。褒賞の対象者は、「県内に在住する功労者だけに限らず、県外にあっても本籍地が県内にあるなど本県に密接な関係がある功労者について対象」としています。 私については「多年、北方史を始めとした日本古代・中世史の研究に励み県内自治体史編纂に数多く携わり、地方史の発展に寄与するなど文化の発展に貢献した功績まことに顕著であるため」とのことでした。 私が日本北方史に取り組んだきっかけは 1985 年の弘前大学赴任時でした。当時は青森県津軽地方の歴史と言え、著名な郷土史家による名言「津軽の歴史は、縄文から為信へ」で明らかなように、古代中世史がすっぽり抜けていたのです。それで私が一から再検討し、その成果を学会誌は当然として、さらに青森県内の自治体史に反映させていきました。1990 年からの『弘前市史』『五所川原市史』、1994 年からの『浪岡町史』、1995 年からの『青森県史』、1996 年からの『青森市史』などです。とくに大規模な『青森県史』では、古代については対象を青森県域にこだわらず、広く北方世界を対象として編纂したもので、20 年以上を要する大事業でした。その多くは法政大学へ異動した後、完成させたものです。これらの仕事は苦労も多かったのですが、北方古代中世史研究の開拓には貢献できたと思っております。また全国に先駆けて自治体史のデジタル化にも取り組んで大きな成果を上げることができました。 令和 2 年度「青森県文化賞」に続き、今回の褒賞授与は、これらの長年の仕事を評価していただいたということで、大変嬉しく思っています。	